

令和6年第8回総務文教常任委員会 要点記録

開閉会日時		令和6年9月12日（木曜日）		開会	10:00		会議場所		別海町議会 委員会室2	
				閉会	11:24					
委員の出欠		1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	8 番	田村 秀男	出席
		14 番	佐藤 初雄	出席	15 番	戸田 憲悦	出席			
出席説明員	総務部	総務部長		総務部次長兼総務課長		総合政策課長		情報広報課長		
		伊藤 輝幸	出席	寺尾真太郎	出席	松本 博史	出席	山田 哲哉	出席	
		財政課長		税務課長		防災・基地対策課長		尾岱沼支所長		
		角川 具哉	出席	松田 勝広	出席	岩口 裕昭	出席	大坂 恒夫	出席	
		西春別支所長		総務課主幹		総務課主幹		総合政策課主幹		
		小村 茂	出席	佐藤 亮	欠席	武田 聖士	欠席	佐藤 貴也	出席	
		防災・基地対策課防災監		防災・基地対策課主幹		防災・基地対策課主幹		税務課主幹		
		三瓶 秀憲	欠席	深川 淳一	欠席	橋本 達也	欠席	武田 妙子	出席	
		広報情報課主幹		防災・基地対策課主幹		財政課主査		財政課主査		
		伊藤 武史	欠席	寺澤 淳司	欠席	高橋 克彦	出席	浦部 裕美子	欠席	
		総合政策課主査		総合政策課主査		税務課主査				
		人羅 茜	出席	大西 廣和	出席	竹本 誠	欠席			
	選挙管理 委員会	書記長		書記						
		寺尾真太郎	出席	佐藤 亮	欠席					
	別海 消防署	別海消防署長		別海消防署副署長		別海消防署副署長兼予防課長		別海消防署警防課長		
		山田 勝人	欠席	山桑 貴光	欠席	西塚 隆幸	欠席	太田 裕司	欠席	
	教育 委員会	教育部長		生涯学習センター長兼中央公民館長		指導主幹		指導参事		
		宮本 栄一	出席	福原 義人	出席	稲村 和典	欠席	瀬川 航平	出席	
		学務・スポーツ課長		学校教育課長兼学校給食センター長		生涯学習課長		西公民館長		
		斎藤 陽	出席	池田 卓也	出席	木戸口 誠	欠席	小村 茂	出席	
		東公民館長		図書館長・郷土資料館長他		学務・スポーツ課主幹		学務・スポーツ課主幹		
		大坂 恒夫	出席	堺 啓	出席	高津 寛人	出席	立澤 雅彦	欠席	
		生涯学習課主幹		学校給食センター主幹		中央公民館副館長		西公民館副館長		
		恒川 敦史	出席	平下 奈津子	欠席	今野 学	欠席	佐藤 政士	欠席	
		東公民館副館長		郷土資料館副館長		郷土資料館主幹		学務・スポーツ課主査		
		福原 仁史	欠席	石渡 一人	欠席	戸田 博史	欠席	武田 文吉	出席	
		学校教育課主査		学校教育課主査		図書館主査				
		戸野 晶雄	欠席	高橋 美香	出席	吉田 美奈子	欠席			
	委員外の出席						合計		0名	
	事務局職員		局長 干場 富夫				合計		1名	
	傍聴者数		一般 0名		報道関係者 0名		合計		0名	

令和6年第8回総務文教常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 14番 佐藤	10:00 開会
	出席委員5名、欠席委員0名、委員外0名、会期1日
	挨拶
	【総務部所管事務調査】
総務部長 伊藤	挨拶及び概要説明
	・本日の概要について説明させていただく。定例会提出議案の付託案件ではないが、議案第64号・65号について何かあればお答えする。また、所管事務調査事件として「第7次別海町総合計画の見直しについて」を説明させていただく。その他として「令和6年度各町税課税状況について」を報告させていただく。
委員長 14番 佐藤	・議案第64号・65号について何かあるか。
副委員長 8番 田村	・議案第64号だが、4,400円を10,000円に上げるとのことだが、説明では看護師の宿直と限定しているが、条例上は看護師ではなく職員としているので説明を願う。また、10月1日施行としているが、看護師不足は従来からわかっていたのに当初予算としなかったことについて伺う。
総務部次長 寺尾	・今回の条例改正では10,000円を超えない範囲とし複数のケースを想定している。細かな業務内容ごとの詳細は規則で定めることとしている。また、2番目の質問については、病院では今年になってから産休の看護師が相当数いる状況で夜勤のシフトを組んでいるが、救急外来もある中で状況が切迫してきたことから、早急に対応すべきと判断した。
副委員長 8番 田村	・1点目の規則はいつ策定するのか。また、病院予算の関係になるが、6か月で120万円の予算だが、1か月20回の夜勤を予定するということか伺う。
総務部次長 寺尾	・規則の時期だが条例が議決され次第準備する。次に120万円の予算の関係は、10月からは宿直体制をとる必要がある日数は月に20日程度で、残りは夜勤の中で対応できると聞いている。
副委員長 8番 田村	・外来看護師を月に20日夜勤をさせるということは職員の管理上大丈夫なのか。
総務部次長 寺尾	・外来の看護師は十数名いる。宿日直は勤務法定労働時間ではなく、また、対応すべき状況の時に業務が発生する形となる。
委員長 14番 佐藤	・他に何かあるか。
委員 一同	・なし。
委員長 14番 佐藤	議事1 所管事務調査について
	(1) 第7次別海町総合計画の見直しについて
総合政策課主幹 佐藤	・資料により説明
総合政策課長 松本	・資料により説明（補足説明）
委員長 14番 佐藤	質疑
副委員長 8番 田村	・「別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の名称は今後残らないのか確認する。また、計画の見直し後の案を見ると、「別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略検討推進委員会」を通さずに進める流れなのか。それと資料にある「議会による評価・検証」については、義務づけてやっていくのか伺う。
総合政策課長 松本	・1つ目の質問だが、「まち・ひと・しごと創生法」はあるが、本町の場合は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」はなくなり、総合計画の中に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を位置づける。 ・2つ目の「まち・ひと・しごと創生総合戦略検討推進委員会」の関係では、過去の経緯から会議での意見も少なく、検証する機関として疑問がある。DXの時代なのでそれよりはきちと町民の声を拾うことが大切。前回お見せしたが、町民の方がまちづくりを考える機会になるようなサイトも作り、こういったものを町民の方に見ていただきながら、たくさんご意見をいただくために、町民の目線をしっかり確保していきたい。ただ、個別具体的なもの

令和6年第8回総務文教常任委員会 要点記録

		になると、事務事業の中身は町民の方は難しいので、議会の皆さんにお願いしたい。
委員	1番 市川	・3つ目だが、議会基本条例に議決事項として位置づけられていることから、毎年の進捗について議会の中でPDCAを回していただきたい。調査の仕方についても所管事務調査も含めてご意見をいただきたい。
		・外国人の関係だが、外国から移住してきて住んでいる方と酪農業や加工業に従事するために一時的に住んでいる方も一定数いて増えていくと思うが、その中で人口減少の対策というのは違うと思っている。別海町に来た方が居住する期間中は私たちと同じ環境で生活しやすいというのを別海町は提供すべきと思う。言語や文化の違いがあるが、手助けや寄り添った行政の推進について計画に明記すべきと考える。
総合政策課長	松本	・社会減で考えると事業者が経営を持続するために外国人労働者を雇用することは確かな人口戦略で、また、社会増で考えれば新たに起業しようとする人が、外国人観光客を対象に何か事業を開始することは社会増に繋がる。その上で言語対応するために外国語を話せる人材の確保はいろいろ応用できる。また、ずっと住んでいる方と一時的に住んでいる方についても、人口を伸ばそうとすると観光の入込客数よりもどれだけ消費するかが大事ということで考えたら、ずっと住んでいただく方に対する対応や戦略とそのサービスもそれぞれ違ってくる。色々な課題があると思うが、協力隊で外国語を話せる隊員も多いので、その可能性も見据えながら勉強していきたい。
委員	2番 吉田	・総合計画見直し案の中で計画の実施期間を見て思ったが、毎年度見直しとなっていて移り変わりの激しい今の時代に、10年という期間は追いつかないのではないかなと思うが、この期間そのものの議論があったか伺う。
総合政策課長	松本	・それぞれの自治体で計画期間は決められるが本町ではこれまで10年としてきた。この計画の策定作業や見直し作業は大変な労力が必要。ただし今は社会問題が数多く出てくるので住民の声を拾うのに団体ヒアリングのタイミングをもう少しこまめにできないかななど対応策を考えていきたい。
委員長	14番 佐藤	・他に何かあるか。
委員	一同	・なし。
委員長	14番 佐藤	議事2 その他
委員長	14番 佐藤	(1) 令和6年度各町税課税状況について
税務課長	松田	・資料により説明
委員長	14番 佐藤	確認事項
副委員長	8番 田村	・森林環境税は1世帯1,000円だが、課税額がわかれば教えてほしい。
税務課長	松田	・資料5ページの令和6年度の納税義務者数が8,151人なので掛ける1,000円となる。
委員長	14番 佐藤	・他に何かあるか。
委員	一同	・なし。
委員長	14番 佐藤	挨拶
委員長	14番 佐藤	総務部 10:44 終了 休憩
委員長	14番 佐藤	10:50 再開 委員長挨拶
		【教育委員会所管事務調査】
教育部長	宮本	挨拶及び概要説明
		・本日の所管事務調査は「小中一貫教育及び別海高等学校の魅力向上や支援事業について（義務教育学校建設基本構想）」の1件で、その他は「別海高等学校間口の状況について」及び「いじめ・不登校問題について」を報告させていただく。
委員長	14番 佐藤	議事1 所管事務調査について
		(2) 小中一貫教育及び別海高等学校の魅力向上や支援事業について
学務・スポーツ課主査	武田	・別海中央地区に設立を予定している義務教育学校基本構想について、令和6年3月14日開催の令和6年第2回総務文教常任委員会以降現時点までの進捗状況を伝える。基本構想の受注者については、令和6年6月27日執行の令和6年度6月第2回入

令和6年第8回総務文教常任委員会 要点記録

		札で、5者による指名競争入札の結果、2,497万円で株式会社日本技研が落札し、令和6年7月3日に契約を締結した。履行期間は令和7年3月25日まで。その後7月31日に受注者と業務内容の詳細や今後のスケジュールについて打合せを行い、基本構想策定業務と並行して別海中央小学校及び別海中央中学校の耐力度調査を開始した。耐力度調査は児童生徒がいない3連休を活用し、9月14日から16日に別海中央小学校、9月21日から23日に別海中央中学校の現地調査を予定している。また、義務教育学校建設に当たり検討事項は多岐にわたり町内において横断的な協議が必要となることから、義務教育学校建設庁内検討委員会を令和6年9月5日に設置した。今後は地域との合意形成を図るため、地域協議会の立ち上げや耐力度調査結果に基づいた活用財源の選定、校舎の形態や規模など基本構想の進捗状況に合わせて、必要な協議・検討を庁内検討委員会や地域協議会と随時行い、その協議結果は常任委員会で報告させていただく。義務教育学校の設立は今後先を見据えた計画が必要で、検討を進めている今が重要で、スピード感を持つことは勿論のこと未来を見据えた慎重さをもって目標に向かいたいと考えている。	
委員長	14番	佐藤	質疑
副委員長	8番	田村	・庁内検討委員会のメンバーを伺う。
学務・スポーツ課主査	武田		・委員長に教育部長、副委員長に学務・スポーツ課長、総合政策課長、財政課長、防災・基地対策課長、建築住宅課長、指導主幹2名、指導参事、学校教育課長となる。
			・他に何かあるか。
委員長	14番	佐藤	・なし。
委員	一同		
委員長	14番	佐藤	議事2 その他
委員長	14番	佐藤	(2) 別海高等学校間口の状況について
学務・スポーツ課長	齋藤		・令和7年度の高校の間口の状況について説明する。別海高等学校の間口については、これまで募集時には普通科3学級として間口の確保をしてきたが、令和5年度の普通科入学者数が65名で、令和6年度は72名となっており、結果的に3学級に必要な80名に満たなかったことから現在の1・2年生は2クラスの状況となっている。このような状況から6月に出された北海道の高校配置計画案では普通科2間口の案が出されたところ。しかし同じく6月に町内各中学校生徒に対する高校への進路希望調査を実施した結果、3間口確保の基準である80名を超える生徒が別海高等学校への進学を希望していることが確認でき、その調査結果を北海道に報告しているところ。併せて町が実施している支援事業の状況報告もしているところ。この進路希望調査等の結果を受けて9月3日に北海道において道立高等学校の配置計画が決定し、令和7年度別海高等学校普通科は3間口となる。ただ、令和8年度以降においては、町内の生徒数の減少やスポーツや勉強などで町外の高校に進学希望する生徒は、今後も一定割合いると思われ、生徒数減少は全国的な状況であり、釧路や札幌など他の学校への進学が以前よりハードルが下がりがり行きやすくなっている状況にあるので、今後3間口確保はますます難しくなってくる。このため高校の支援については、現在実施している各種支援事業によるハード・ソフトや金銭的な支援事業だけではなく、生徒自身が別海高等学校に行きたいと思えるような魅力化を高めることが今後ますます重要になってくる。委員の皆様が別海高等学校の生徒と意見交換で出た高校生が思っていること、改善してほしいと思っていることが、金銭的なことだけではなく生徒が思っている別海高等学校の魅力化に直接繋がると思うし、現在進めている地元に興味と関心をもってその魅力を学んでもらう「ふるさとキャリア教育」と合わせて将来のUIターンに繋がるような生徒にとって魅力ある高校となるよう引き続き委員の皆様と別海高等学校側とともに生徒数確保に向けて取り組んでいきたい。
委員長	14番	佐藤	確認事項
副委員長	8番	田村	・間口数による教員の人数について伺う。
学務・スポーツ課長	齋藤		・80名いれば3学級になるのでその分増える。

令和6年第8回総務文教常任委員会 要点記録

副委員長	8番	田村	・例えば80名を超えて3学級になった場合1学級の人数は減少するが、それが生徒にとって良い環境なのか伺う。 ・少数のクラスでやりやすくなる考える。 ・教育委員会としては間口の考え方として、間口を確保することによって教員の数が増える等メリットがあると思うが、間口を増やすことへの教育委員会の考え方を伺う。 ・教員の数が増えることによるメリットはあると考える。できるだけ別海町の子供たちが別海高等学校に通うことにより学校や地域としても活性化に繋がり、将来的にUIターンなど「ふるさとキャリア教育」の一環として繋がっていくような魅力ある高校を描いている。 ・釧根管内の全ての高校の間口数と生徒の受験者数が毎年でているが、数年前に別海高等学校は受験者数に対して募集人員が大幅に多い状況が見られたのでお聞きした。 ・基本的に卒業生の人数から120人の定員数は多くはなく、その年に町外に出ていく生徒の割合が多いか少ないかの状況になると考える。 ・北海道立の高校に対して、別海町教育委員会がどれくらい意見を伝えることができるのか伺う。先日別海高校生と意見交換を行った際に、角度によっては生徒から黒板が見えづらいという意見があったので伺った。 ・高校の設備・備品は北海道の所有となる。校長会開催時には高校の校長も出席するので、その話し合いの中で改善に努めたい。 ・他に何かあるか。 ・なし。
学務・スポーツ課長		齋藤	
委員	2番	吉田	
学務・スポーツ課長		齋藤	
委員	2番	吉田	
教育部長		宮本	
委員	1番	市川	
学務・スポーツ課長		齋藤	
委員長	14番	佐藤	
委員		一同	
委員長	14番	佐藤	
教育部指導参事		瀬川	
委員長	14番	佐藤	
副委員長	8番	田村	
教育部指導参事		瀬川	
副委員長	8番	田村	
委員	1番	市川	
教育部指導参事		瀬川	
委員	2番	吉田	
教育部長		宮本	
委員長	14番	佐藤	
委員		一同	
委員長	14番	佐藤	
委員長	14番	佐藤	

- ・北海道立の高校に対して、別海町教育委員会がどれくらい意見を伝えることができるのか伺う。先日別海高校生と意見交換を行った際に、角度によっては生徒から黒板が見えづらいという意見があったので伺った。
 - ・高校の設備・備品は北海道の所有となる。校長会開催時には高校の校長も出席するので、その話し合いの中で改善に努めたい。
 - ・他に何かあるか。
 - ・なし。
- (3) いじめ・不登校問題について
- ・資料により説明

確認事項

- ・教育委員会として「SOSの出し方に関する教育」についてはどのように進めているのか。
- ・「SOSの出し方に関する教育」は、昨年度までに全学校で実施している。今年度から3年に1回は実施するよう各学校へ通知しており、実施後は学校からの報告によりその内容や方策について各学校へ還元している状況。
- ・学校としていじめや不登校だけではなくヤングケアラーなどいろいろな問題があるので、「SOSの出し方に関する教育」は広範囲で進めていただきたい。
- ・説明のあったアンケート調査は、いじめを受けている子や不登校の子も調査されているか伺う。
- ・現状を申し上げますと全員ではない可能性があるが、学校に来れた子は実施することになっている。
- ・SOSの取組で、地域サポーターからの声があればお聞きしたい。
- ・今、そういったボランティアの窓口を進めている状況なので今のところはない。
- ・他に何かあるか。
- ・なし。

閉会挨拶

11:24閉会